

事業番号	401
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	歴史館施設管理事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系	担当課	文化振興課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	文化財係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		15 文化振興		3 小牧固有の歴史・文化遺産を保全・活用します				
		副目的	18-1								
	予算区分	款	10	項	5	目	7	大	2	中	1
	根拠法令・個別計画	歴史館の設置及び管理等に関する条例・文化振興ビジョン									
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	小牧のシンボル小牧山にある歴史館を多くの方に利用してもらうことで、歴史遺産の再確認、小牧のPRにつなげる。									
	内容 (手段)	<p>◆25年度実施内容</p> <p>○歴史館管理運営 管理、運営は指定管理者である小牧市施設活用協会へ委託。 館内ガイドの配置、夜間開館の実施等、利用者の利便性向上に努めた。また、さくらまつり、信長まつり、市民まつりなど他の課が行う事業にも協力し、開館時間の延長・無料入館等、利用拡大を図った。 小牧山城築城450年記念企画展を下記のとおり3回開催し、期間中に述べ29,109人の入館者があった。 1「信長ゆかりの女性たち」5月17～6月19日(34日間)、入場者数6,394人 2「織田信長ってどんな人？」7月19日～9月18日(61日間)、入場者数8,079人 3「織田信長が築いた 小牧山城の石垣」9月20日～10月16日(27日間)、入場者数14,636人</p> <p>職員は管理者との調整、入館料の減免、企画展示、開館時間の延長等の諸手続きや、広報活動を行った。</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 ・歴史館管理運営委託料(21,113千円) ・耐震改修計画策定委託料(3,202千円) ・小牧城下町パネル作成委託料(1,548千円) ・その他、役務費、負担金等(485千円)</p> <p>◆26年度直接経費の内訳 ・歴史館管理運営委託料(23,213千円) ・歴史館パンフレット増刷(400千円) ・その他、旅費、需用費等(166千円)</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	24,018	22,045	26,348	23,779	
	正職員	従事者数	人	0.05	0.10	0.10	0.10	
		人件費	千円	263	526	526	526	
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	24,281	22,571	26,874	24,305	
対前年比		%		92.9	119.0	90.4		
財源	一般財源	千円	20,257	18,136	21,903	20,253		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	4,024	4,435	4,971	4,052		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	企画展	日	目標	11	20	123
実績				60	34	122	
夜間開館		日	目標	16	24	—	18
			実績	15	25	19	
ガイドボランティア		日	目標	8	8	24	24
			実績	29	24	27	
成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
入場者	人	目標	35,000	55,000	60,000	60,000	
		実績	50,069	62,159	71,972		
企画展・夜間開館入場者	人	目標	—	—	—		
		実績	10,561	21,814	33,328		

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	企画展の実施や、夜間開館、他行事、歴史ガイド団体との連携により、多くの方に入館していただき、小牧の歴史を紹介することができた。				
		事業実施における課題	小牧山の山頂という立地条件から、高齢者や体力面に不安を抱える方からは距離感のある施設となっている。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	市内唯一の歴史資料館であるため、伝えていくべき小牧の歴史、文化財を学び親しむ機会を失う。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	企画展を実施し、小牧山城についての魅力を広くPRするとともに、小牧市歴史館そのものについてもPRを図っていく。				
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	市内唯一の歴史資料館を維持することで、文化財を学び親しむ機会を確保する必要がある。					
	27年度以降の改善案	文化財の利活用のため、積極的に情報を発信するための中心的な役割を果たす機能となるため、身近な場所で情報発信できる有効な活用方法を研究していく。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 引き続き指定管理者のモニタリングに努め、利用者アンケート結果を活かすなど利用者の満足度が高まる施設運営に努めること。